

# 平成30年度第1回千葉市都市局指定管理者選定評価委員会公園部会議事録

1 日時：平成30年7月9日（月） 午後1時30分～午後3時00分

2 場所：千葉中央コミュニティセンター 3階 調停室

3 出席者：

(1) 委員

石井 慎一委員（部会長）、観音寺 拓也委員（副部会長）、印南 耕次委員、  
蒔田 鐵夫委員、柳井 重人委員

(2) 事務局

(都市局)

峯村都市局次長

(公園緑地部)

竹本公園緑地部長

(都市総務課)

石川都市総務課長、福原課長補佐、土肥主査、野田主任主事

(公園管理課)

佐藤課長、佐野課長補佐、住田主査、小川主任主事、加藤主任技師

4 議題：

(1) 亥鼻公園集会所の年度評価について

(2) 都市緑化植物園みどりの相談所の年度評価について

5 議事の概要：

平成29年度指定管理者評価シート、平成29年度事業計画書、平成29年度事業報告書及び指定管理者財務諸表をもとに、都市局指定管理者選定評価委員会による評価を受け、当該指定管理者による施設管理運営のサービス水準の向上、業務効率化の方策、改善を要する点及び当該指定管理者の倒産、撤退等のリスクの把握について、都市局指定管理者選定評価委員会から意見を聴取した。

(1) 亥鼻公園集会所の年度評価について

ア 指定管理者 株式会社塚原緑地研究所

イ 部会の意見

(ア) 指定管理者による自己評価、市による評価のとおり優れた管理運営が行われていると認められる。今後も継続して、さらに市民にとってのより良い施設となるよう管理運営を行っていただきたい。

(イ) 本施設専用の駐車場がないため、駐車場の利用に関し、引き続き、指定管理者と市で協力して、周辺施設等との調整をお願いしたい。

(ウ) 本施設のビジョン（施設の目的・目指すべき方向性）、ミッション（施設の社会的使命や役割）にある周辺エリアの活性化や亥鼻山への来場者が憩える場の提供等のため、周辺エリアにおける各種団体等と連携するための枠組みを検討されたい。

(2) 都市緑化植物園みどりの相談所の年度評価について

ア 指定管理者 一般財団法人千葉県まちづくり公社

## イ 部会の意見

- (ア) 今年度は、成果指標のうち、講習室の利用者数については、天候等の関係で達成できていないが、指定管理者による自己評価、市による評価のとおり優れた管理運営が行われていたものと評価できる。今後も継続して、さらに市民にとってのより良い施設となるよう管理運営を行っていただきたい。
- (イ) 利用者アンケートで得られた意見等に対し、引き続き、対応していただくとともに、指定管理者の努力ではどうにもできないトイレ等の設備や施設そのものの改修については、市で対応をお願いしたい。
- (ウ) 若年層の利用が少なくなっており、SNSなども含め、新たなプロモーション活動に積極的に取り組み、利用促進につなげていただきたい。
- (エ) ボランティア団体と引き続き、連携し、意見交換等を通じて、活動の場を確保し、本施設の運営に活かしていただきたい。

## 6 会議経過：

- 福原都市総務課長補佐 委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

只今より平成 30 年度第 1 回千葉市都市局指定管理者選定評価委員会公園部会を開催いたします。

事務局をしております都市総務課課長補佐の福原でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議でございますが、5 名全ての委員の皆様にご出席いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第 10 条第 2 項の規定により、本会議は成立しております。

開会に当たりまして、都市局次長の峯村よりご挨拶申し上げます。

- 峯村都市局次長 こんにちは。都市局次長の峯村でございます。

委員の皆様には、大変お忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日ごろから本市の都市行政をはじめ、市政各般にわたりまして、多大なるご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、都市局では、亥鼻公園集会所など 39 の有料施設の管理運営に当たりまして、市民サービスの向上と管理経費の節減を図るため、指定管理者制度を導入しております。

本日開催する公園部会におきましては、亥鼻公園集会所と都市緑化植物園みどりの相談所の年度評価を実施し、管理運営のより一層の改善につなげていきたいと考えておりますので、委員の皆様には、それぞれの立場から忌憚のないご意見をお願いいたします。

ご報告でございますが、本年 1 月にご審議いただきまして、非公募により、稲毛海浜公園施設リニューアル整備運営事業の実施事業者を指定管理者として選定していただいた、稲毛海浜公園の共用施設につきましては、基本協定を締結いたしまして、4 月より管理運営を実施しているところでございます。

当該施設につきましては、指定管理期間が平成 30 年度、31 年度の 2 か年になりますことから、今回の年度評価の対象とはなっておりませんが、来年度の年度評価及び総合評価の際に、委員の皆様からご意見をいただければと考えております。

以上、甚だ簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

- 福原都市総務課長補佐 都市局次長につきましては、本日所用のため、これもちまして

退席させていただきます。

(峯村都市局次長退席)

○福原都市総務課長補佐 それでは、議事に入る前に、会議の公開及び議事録の作成についてご説明いたします。

お手元の資料3、赤いラベルで3と振ってある資料になりますが、千葉市都市局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等についてをご覧ください。

本日の会議は、1、会議の公開の取扱いの(1)により公開としております。また、議事録につきましては、2、議事録の確定の(1)及び3、部会の会議への準用により、事務局が案を作成し、皆様に内容を確認していただいた後、部会長の承認により確定させていただきます。

それでは、ここからは石井部会長に議事を進行していただきます。石井部会長、よろしく願いいたします。

○石井部会長 石井でございます。

それでは、私が議事進行させていただきます。会議を円滑に進めて参りたいと存じますので、よろしく願いいたします。

はじめに、議題(1)亥鼻公園集会所の年度評価に入ります。

まず、資料7-1、平成29年度指定管理者年度評価シートの1、公の施設の基本情報から、7、総括(2)市による評価について、事務局よりご報告をお願いいたします。

○佐藤公園管理課長 公園管理課長の佐藤でございます。本日はよろしく願いいたします。座って説明させていただきます。

資料7-1をご覧ください。平成29年度指定管理者年度評価シートでございます。

1番の、公の施設の基本情報です。施設名称は、亥鼻公園集会所、ビジョンは、本施設は千葉市発祥の地として設置された歴史公園内にあり、本市や日本の歴史・風土への理解を深める文化活動の場として機能するとともに、周辺エリアの活性化や市内観光の振興に寄与する。

ミッションは2点ございまして、まず市民の文化、コミュニティ活動等の場を幅広く提供すること。2つ目に、市内の観光拠点の一つとして広く周知を図り、周辺公共施設等と連携し、亥鼻山への来場者が憩える場を提供することです。

成果指標としまして、施設利用者数を上げております。数値目標は、年間2,600人以上としております。

2番の指定管理者の基本情報です。

指定管理者名は、株式会社塚原緑地研究所です。

指定期間は、平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間となっております。

3番の管理運営の成果・実績です。

成果指標に係る数値目標の達成状況です。施設利用者数、平成29年度実績ですが3,445人、達成率は132.5%となっております。

次のページをご覧ください。4、収支状況です。必須業務の収支状況です。

収入としまして、指定管理料、利用料金収入の合計としまして、実績額936万2,000円となっております。次に、支出でございます。人件費、事務費、管理費、その他事業費を合計しまして、実績額としまして918万4,000円となっております。

次のページをご覧ください。自主事業収支状況です。

まず、収入ですが、自主事業収入としまして、平成29年度1,009万9,000円となっております。支出です。人件費、事務費、使用料、事業費、これらの合計としまして、平成

29年度 981万3,000円となっております。

次に、収支状況です。

まず、必須業務の収支としまして、17万8,000円の黒字となっております。次に、自主事業の収支としまして、28万6,000円の黒字となっております。合計しまして、収支としまして46万4,000円の黒字となっております。

次に、5番、管理運営状況の評価でございます。管理運営による成果・実績としまして、評価項目としまして、施設利用者2,600人の達成という部分で、成果としましては132.5%の成果を上げましたので、市の評価としましてはA評価としております。

次のページをご覧ください。(2)の市の施設管理経費縮減への寄与でございます。

これは、市の指定管理料を支出の削減としまして、市の評価としてはC評価、提案と同程度ということでございます。

次に、管理運営の履行状況です。まず、自己評価で、水準を上回る優れた管理運営が行われていたものとしまして、3番の施設の効用の発揮の(2)利用者サービスの充実。これをB評価としております。また、(3)施設における事業の実施、こちらをB評価としております。

4番のその他としまして、市内業者の育成、市内雇用への配慮等、こちらもB評価としております。市の評価では、このうち3番の(3)施設における事業の実施ということで、これのみをB評価としております。他の評価は標準どおりということでございます。

こちらの特記事項としまして、施設の特性を生かした事業を実施しており、収入も伸びているという部分で評価しております。

次に、都市局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応としまして、平成28年度の意見としまして、駐車場の確保。これに対して、対応・改善の内容としまして、隣接する郷土博物館の駐車場が利用できるよう、最終調整を行っております。ごみ箱の設置に対しまして、要望のあったごみ箱を設置したほか、将棋盤等もそろえたということでございます。

次のページをご覧ください。

6番の利用者ニーズ・満足度等の把握としまして、指定管理者が行ったアンケート調査です。

実施内容としまして、集会所利用者アンケートを行っております。こちらは、回答数は158名ということで、亥鼻集会場の利用者に対してその都度、用紙を配付し、回収しております。

次に、庭園文化講座のアンケートでございます。こちらに関しましては、講座参加者に資料とともに配付して、終了時に回収しておるものです。回答数は69人ということで行っております。

結果ですけれども、集会所利用者アンケートに関しましては、まず利用者のお住まいということで、千葉県外が61%と多い割合となっております。利用目的については、写真撮影が81%を占めております。

次、施設、あと清掃、従業員の対応状況については、満足、ほぼ満足の割合が97%を占めており、良好な評価を得ているということでございます。

自由記載の中で、苦情・要望としましては、蛍光灯がやや暗いと思ったと。あと、障子紙は年1回張りかえると明るくなると思うという指摘がございました。

あと、庭園文化講座アンケートの結果ですけれども、参加者は女性が87%と多く占めております。また、参加者のお住まいは市内が75%ということで、地元の利用が多くなっております。講座の参加状況は、初めての方が最も多く、約半数、次いで、2から4

回目の参加者が多くなっている状況でございます。講座の状況については、おおむね好評を得ているということになっております。

次に、市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応ですが、「蛍光灯がやや暗い」に対しては、集会所の照明をLED照明に交換し、暗さを改善した。「障子紙を年1回張りかえると明るくなると思う」に対しましては、ふすま、障子の張りかえを行いました。

次のページをご覧ください。

7の総括です。

まず、指定管理者による自己評価です。

総括評価はBとなっております。標準を上回る優れた管理運営が行われているという評価でございます。

内容的には、集会所の利用者数が目標数値及び前年度比ともに大きく上回ることができた。また、利用率についても61%で、社内目標である50%以上という数値をクリアすることができた。

接客については、職員一同、心をこめてもてなすということを心がけ、対応したので、アンケートにおいても多くの方から満足との回答をいただき、またリピーターの増加につながった。

管理面において、管理管轄外の庭園の清掃、草刈り、樹木の剪定などを積極的に行い、日本庭園の美観を保つよう努力した。

自主事業にある庭園文化講座も、新しい企画を取り入れて参加者に満足いただいた。また、郷土博物館が企画した騎馬武者体験のイベントにあわせて、文化会館、県立図書館と連携し、いのはな山秋祭りを開催し、亥鼻公園の集客に貢献したということでございます。

対しまして、市による評価、こちらもB評価としております。

指定管理業務においては、施設利用者数が前年度、成果指標を大きく上回っており、評価できる。また、アンケート調査においても、従業員の対応、清掃や備品等について好評を得ており、良好な管理運営がなされているものと評価できる。

自主事業においては、庭園文化講座の実施、駅メモスタンプラリー、47都道府県応援プロジェクトへの協力等、良好な管理運営と評価できる。

また、近隣施設との連携事業では、野点や琴の演奏等、施設の特性を生かした事業を実施しており、多くの方に来場いただけたことから、優れた管理運営が行われたと評価できるということでございます。以上でございます。

- 石井部会長 ありがとうございます。それでは、只今の事務局のご報告に対しまして、委員の皆様、ご質問・ご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。
- 蒔田委員 資料7-1の4ページの一番下、(4)都市局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応ということで、平成28年度の駐車場の確保、以前言ったような気がするのですが、あの辺に駐車場をたくさん造るのは大変なので、ここに書いてある郷土博物館の駐車場、共同利用できないかという最終調整と書いてありますけれども、どのようになりましたのでしょうか。
- 佐藤公園管理課長 調整の結果、とめられるようになりまして、まだ実施してはいないので、細かい点を調整するというので、今進めております。
- 蒔田委員 新しく造るよりは、既存の駐車場をうまく活用してもらったほうが、公園の中に駐車場だけというのはみっともないので、そのほうが良いと思います。

それから、もう一つ、利用者の住まいについて、5ページです。

アンケート結果の中の利用者アンケートの2行目、利用者の住まいはと、県外が61%、千葉県千葉市にありながら、県外の人が多い。この理由は何だったのでしょうか。

これは、資料7-6の17ページ、資料編と書いてある裏側になりますが、本日はどこからお越しになりましたか、県外が117人ですか。これは、主にどの辺の県から来られたか。これはわからないでしょうか。

- 佐藤公園管理課長 県外が61%で、写真撮影が81%というのは、例のコスプレの撮影で、若い方が、主に東京は公園ではこういうことを禁止しているものですから、そこら辺から流れてくると聞いております。
- 蒔田委員 それから、アンケートの中の下の方にも、コインパーキングに駐車したが、駐車場があったほうが便利だと、これが先ほどの郷土博物館の駐車場が利用できるようになると、どのくらいの台数が確保できるのでしょうか。
- 佐藤公園管理課長 はっきりした数字はないということで、郷土博物館もそんなに大規模な駐車場というわけではなく、数十台程度ですので、そこでの調整ということになると思います。
- 蒔田委員 わかりました。
- 公園管理課職員 補足で申し上げます。

今、申し上げましたように、最終調整中のごさいますて、了解はもういただいております。実際に、じゃあ何台までという制約とか、そういったところは、お尋ねしたら、そういうことは考えていないということで、ある程度自由に使わせていただければそうな雰囲気はあるんですけども、どちらの施設も夕方5時に終わりますので、時間的にもそろえられてというのがあります。

ただ、こちらの施設で定期的にお茶の、非常に混み合うイベントが年何回かあって、そのときに来る車をどういうふうにさばっていくかとか、一瞬すごく利用者、台数がひしめく日が年何回かあるので、そのときにどういうふうにやっていくかということも詰めながら、今やっている最中のごさいます。

- 蒔田委員 ありがとうございます。
- 柳井委員 資料7-1の3ページで、目標比132.5%。とても目標設定に対して、お客さんがいらっしゃったということになっていると思うのですが、講座とか茶室は余り大きいキャパはないと思うので、これはイベントの分で確保したということですか。なぜこんなに達成できているのですか。
- 佐藤公園管理課長 こちら、昨年度、3月、要するに年度末。通常ですと3月から4月にかけて咲く桜が非常に早く咲いたということで、その分の前倒しでお客が多く訪れた。その年度当初の4月の分と年度末の3月の桜でかなり多くなってきた。

(補足説明)

桜まつり期間中は、集会所を開放し「和の作品展」を開催しました。作品展に多くの方々がご来場いただきました。

- 柳井委員 2年分、桜の分が来たという。
- 佐藤公園管理課長 そういうことにもなるかと。
- 柳井委員 いや、何か特別な努力をされて、とても増えたということではなくて、天候により桜がちょっと早目に咲いてというような理解ですね。
- 佐藤公園管理課長 はい。
- 印南委員 利用料金収入があるでしょ、あれが計画にかかって、そんなに増えていないのに、人数だけが増えているわけですが。だから、おもしろいなどと思っているのだけれども、普通、人数が増えたら収入も増えるはずですよ。
- 観音寺委員 附随して、よろしいですか。資料7-6の8ページに自主事業収入の月別の売り上げがあるので、確かに29年度、3月が285万になっていて、前年比

352%。次の9ページにもグラフが大きく出ているので、自主事業で相当増えたというふうに思うのですが、一方で利益という部分で見ると、自主事業だけで28万6,000円ということで、ほぼほぼ出ていないというか。

これはほとんどが変動費ということなのでしょう。普通、売り上げがこれだけ一気に増えれば、利益が上がるような気はしますが。

○佐藤公園管理課長 売店で売っている物もかなり低廉な価格で売ってまして、実は夕方近くになると、やっぱり生もの、売れ残りをさばくために割引で売ったりもしておりますので、こういう結果となっている部分がございます。

利用者数というのが、実は必須業務というよりも、この自主事業の売店・茶店の利用者の数もカウントしておりますので、人数的にはかなり増えた中で、こちらの必須業務の利用料金収入という部分が増えていないという部分がございます。

○印南委員 自主事業の売上高が、去年と比べて30%ぐらい増えています。自主事業のこの部分は、人数が増えたことによるのか。

○石井部会長 今、利用者数についてのお話があったんですけども、資料7-6の4ページ。この(1)の利用者数というのは、そうしますと売店だけ利用した方も含まれているということになるのでしょうか。

○佐藤公園管理課長 そのとおりでございます。

(説明の訂正)

茶店・売店等を利用された方は含まれておりません。

集会所の利用者数のみとなりますが、桜まつり期間中は、集会所を開放して「和の作品展」を開催しており、ご覧いただいた方の人数も含まれております。

○石井部会長 その下の(2)の利用件数、これは売店の利用ということではなくて、茶室等、お部屋を申請して使った方、件数ということでしょうか。

○佐藤公園管理課長 はい。

○石井部会長 そうすると、件数としては、昨年度とそう変わっていないということなんですかね。

○佐藤公園管理課長 はい。

○観音寺委員 たびたびすみません、今の部会長のところと同じですけども、資料7-6の4ページ、29年度3月が770人、前年度761人ということで、ここは余り変わりがない一方で、8ページの茶店・売店になると3月は200万ぐらい違うということで、この辺は、何かちょっと数字に違和感を感じるのですが、いかがでしょうか。

○佐藤公園管理課長 ちょっとここら辺、不明なので、確認いたします。

(確認結果)

資料7-6の4ページの2. 管理施設の利用状況に関する事項(1)利用者数については、必須業務である集会所の利用者数を示しており、自主事業である茶店・売店の利用者を含んでおりません。

また、8ページの3. 利用料金その他の収入の状況に関する事項(2)自主事業収入については、自主事業である茶店・売店の収入となっております。

○蒔田委員 今年のお花見の際に、3月の末だったかな、ここに行ったんですけども、茶店で座って食べようというスペースがもうないぐらい人が入っていたのです。そうすると、お店で物を買って、外に行って食べる。だから、売り上げが増えているのかなと。こんなふうにさっきから見えていたんですけどもね。

だから、中に入って座ればカウントされるけれども、買って出ちゃえば、外で食べればカウントされないのかなというふうに思っていたの。

○佐藤公園管理課長 そうですね、そういう推察もできますので、確認をいたします。

(確認結果)

資料7-6の4ページの2. 管理施設の利用状況に関する事項(1)利用者数については、集会所の利用者数になります。桜まつり期間中には、集会所を開放して「和の作品展」を開催しており、それをご覧いただいた方の人数も含まれております。

○蒔田委員 そうですね。

○石井部会長 成果指標の数値目標として、施設利用者数2,600人以上、年間ということをして掲げているわけですが、その人数というのは、もう当初から売店だけの利用者も含めてカウントするというのでよかったですでしょうか。

○佐藤公園管理課長 そのとおりでございます。

(説明の訂正)

茶店・売店等を利用された方は含まれておりません。

集会所の利用者数のみとなりますが、桜まつり期間中は、集会所を開放して「和の作品展」を開催しており、ご覧いただいた方の人数も含まれております。

○石井部会長 売店の利用者だけでなく、それとは別に、茶室を茶室として利用する方の人数とか件数とか、そういったことは特に目標として今、掲げてはいないわけですか。

○佐藤公園管理課長 こちらは設定してはございません。

○石井部会長 この施設のビジョン、ミッションという点を考えると、売店の利用者数だけで目標がクリアされてしまうというよりも、その集会所、茶室などの利用としても目標等を入れたほうがより良いのではないかと、いかがでしょうか。

○佐藤公園管理課長 一つは、非常に小規模な施設ということもあって、利用形態からも、やはりなかなか、努力によって利用者数を増やすという部分ができない部分もございますので、ちょっとそれも、ご意見を踏まえて検討させていただきたいと思えます。

○柳井委員 資料7-1の4ページで、自己評価と市の評価が違っているところがありますよね。利用者サービスの充実がBとCになっていて、その他がBとCになっているのですけれども、この利用者サービスの充実というのは、具体的にはアンケートみたいなものをとれば、とるという手続をやられていれば、やられているということに対する評価なんですかね。それとも、結果、その満足度が上がったとか、満足度、ほとんど満足しているよねみたいな話があって、良好な評価を得ているということなんですかね。それに対して、いや、それでもCということなんですか。この辺がちょっとよくわからないのですけれども。

ここだけ見ると、ちゃんと利用者の支援をやって評価が高いのにと、片や7の、こっちの年次評価のモニタリングレポートを見ると、手続の話になっていますよね。

そこがどういうふうな評価がされているのか、ちょっとお尋ねしたいのですけれども。

○佐藤公園管理課長 この自己評価は、細かい報告に沿って積み上げてやったものではなくて、ここに表示されている項目に対して、標準よりかよくできているかという自己評価をするんですが、こちらの市の評価は、おっしゃるとおり、内についておりますモニタリングの結果を一つ一つ積み上げたものとなっていて、その項目として既定の評価がございますので、そちらについて点数をつけた結果として、C評価、標準となっております。

○柳井委員 じゃあ、例えば利用者意見の聴取とかという、例えば7-1の4ページの項目とかあるんですけれども、こっちの7-3とか見ると、要するにアンケートを実施しているかどうかということをお尋ねしているわけであって、実施していれば○、それ以上の何か意見聴取をやっていれば◎というふうになるというような理解でいいということですよ。

○佐藤公園管理課長 はい。



○石井部会長 委員の皆様、そのほかにはございませんでしょうか。

では、委員の皆様、ありがとうございます。

それでは、1、公の施設の基本情報から、7、総括（2）市による評価については、以上で終わります。

続きまして、7、総括（3）都市局指定管理者選定評価委員会の意見についてですが、次年度以降の管理運営をより適正に行うための意見、助言など、委員の皆様からお願いいたします。

観音寺委員、よろしくお祈りします。

○観音寺委員 現状のアンケート結果等見させていただいても、非常に評価が高いということで、また従業員の方のホスピタリティーが評価されているなというふうに、記載いただいているアンケートでは感じますので、引き続き、今のような管理体制を継続していただいて、利用者数を増やすというところに尽力していただきたいなと思うところです。

一つ、これは千葉市に対する話かもしれませんが、部会長と同意見で、利用者数に関しての目標設定になっておりますが、実際にこのアンケート結果で出ている意見も、ほとんどがこの茶室とか撮影等で使った方のご意見なんですよね。そうなってくると、やっぱり目標設定との違和感を感じざるを得なくて、先ほど小規模なのでなかなか難しいという話があったのですが、仮に資料7-6の4ページの利用件数というのが、29年度は220件というのがありますので、このあたりの数字なんかは目標という形にしてもいいのかなと。

というか、この部分のほうは、リピーターを確保してこれの利用件数を増やすというのが、右のページ、5ページでもあると思いますので、ここは少し、年度途中でできないのかもしれませんが、先々考えていただけるといいのかなというふうに感じます。

○柳井委員 私も同じです。利用率というのが物差しになり得るのかなということと、あとは周辺公共施設との連携というのがミッションの中に含まれているのですけれども、これは質問になってしまうのですけれども、具体的に成果は出ているのですか、今年。

毎年、多分決まったことをやられているのかなと思うのですけれども、何か新しいことをやられて成果が出たとか、そういうふうな部分を評価できないか、評価してあげるといいかなと思うのですけれども、実際のところはどのようなのでしょうか。

○佐藤公園管理課長 少しずつ、いろいろと企業努力でお祭りも連携してやったりとか、そういう姿勢は見えますので。

○柳井委員 何かそういう連携のための枠組みというか、多分個別にやっているのではなくて、周辺エリアのいろんな団体と会合を持てる、円卓を持てるチャンネルとか、そういうようなものがつくれるといいのかなというふうに思います。以上です。

○石井部会長 ありがとうございます。印南委員、いかがでしょうか。

○印南委員 ございません。

○石井部会長 では、最後に私の意見を、少し補足させていただきたいと思います。

管理運営については優れたものが行われていると思いますので、引き続き、次年度以降もよろしくお祈りしたいと思います。

また、今年度も意見や苦情等へきちんと対応されていますので、それもより一層、お祈りしたいと思います。

数値目標の点で、指定管理者の自己評価のところ、自社で目標を利用率として50%以上、それも61%として達成できたということが掲げられていますけれども、ただ、人数ではなくて利用率なので、件数のところに係ってくるのかなと思いますが、指定管理者で自己目標としていますけれども、その点、市でも検討した上で、単純な売店を使った人

数だけで目標を大幅にクリアしたということではなくて、ミッションやビジョンということと照らして、適切な数値目標を出せるようにしていただけたらなと思いました。以上です。

では、7、総括（3）都市局指定管理者選定評価委員会のご意見としましては、これまで出ました意見、これを全て含めて部会の意見といたします。

最後に、資料7-7、7-8の指定管理者財務諸表から見る当該指定管理者の財務状況についてですけれども、印南委員、よろしくお願いたします。

○印南委員 実を言うと、この会社、物すごく悪いんです。よくない。

7-8の貸借対照表を見ていただけますか。貸借対照表の一番下の繰延資産というところがあります。繰延資産の上、開発費というのがありますよね、4,400万。貸借対照表の資産の部の一番下から3行目かな、開発費、4,400万というのがあるでしょ。

これが、資産に乗っかっていますけれども、これは資産性はない。これは全部、本当は費用にしなくちゃいけない。これを費用にしちゃいますと、この会社は純資産は2,800万しかない。2,800万というのは、右の同じ、貸借対照表の右のほうの下から2番目、2,800万、これがこの会社の純資産なんですけれども、これから4,400万を引いたら何千万かの赤字になりますよね。

だから、この会社は実質上は赤字の会社です。去年も3,000万あって、ちょうど去年はほんのちょっと赤字ぐらいだったのだけれども、今年はまた積み増ししていますので、赤字が増えている。

今年、借入金が増えているんですね。全部で6,300万。去年に比べて。短期借入金が3,100万、長期借入金が3,200万ぐらい。よくこれだけ借りられたと思うのだけれども。

この6,300万がどこにいったかという、現金が2,300万、売掛金が1,800万、商品が800万ぐらい。それと、開発費が1,400万。こういう関係なんですよね。

だから、お金が6,600万ありますから、今すぐに倒産ということはないかもしれないけれども、少なくとも、物すごく我々の目から見ると危ないなという印象の会社ですね。

銀行からよく借りられたなというのは、銀行の場合はこういう調査をされていて、純資産にマイナスになると、もうこれは持続的に要注意とか、破綻懸念とかのほうに分類されまして、新しい貸し出しはしないはずなんですけれども、何でこれ、借りられたのか、それがよくわからない。

ですから、悪いことは確かです。以上です。

○石井部会長 ありがとうございます。今の点について、何か市で補足説明等、できることはございますでしょうか。

○佐藤公園管理課長 特にございません。

（補足説明）

指定管理者へ確認したところ、平成29年度より新たに請け負った業務委託が何件かあり、そのための資金として借入れが増えたとのこと。

○石井部会長 ありがとうございます。では、以上で議題（1）亥鼻公園集会所の年度評価を終わります。

続きまして、議題（2）都市緑化植物園みどりの相談所の年度評価に入ります。

まず、資料8-1、平成29年度指定管理者年度評価シート、1、公の施設の基本情報から7、総括（2）市による評価について、事務局よりご報告をお願いいたします。

○佐藤公園管理課長 資料8-1をご覧ください。

1の公の施設の基本情報です。

施設名称は、都市緑化植物園みどりの相談所でございます。

ビジョンは、緑豊かな良好な都市環境を創造するため、より多くの市民に緑の大切さを伝え、緑化や緑の保全に対する意識の普及・啓発を図るとともに、緑を仲立ちとする地域コミュニティの核として機能するというございます。

ミッションは4点ございます。

まず1番目としまして、植物の育て方や管理方法など、市民の日常的な緑化活動に対する指導や相談を行うこと。2番目に、緑化植物の展示や講習会などを通じて、緑化活動や植物に対する学習の場を提供すること。3つ目に、四季折々の植物の姿が楽しめる見本園や園地を開放し、屋外レクリエーションの場を提供すること。4番目に、緑を仲立ちとしたコミュニティ活動を促進するため、緑に関するボランティア活動の場を提供することございます。

成果指標としまして、2つございます。

まず、講習室利用者数、こちらの数値目標としまして、年間 8,200 人以上としております。

もう一つの成果指標、ボランティア団体の活動日数の合計、こちらを年間 236 日以上としております。

2番目に、指定管理者の基本情報です。指定管理者名は、一般財団法人千葉県まちづくり公社です。指定期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日までの5年間となっております。

3番目の管理運営の成果・実績です。成果指標に係る数値目標の達成状況です。

まず、講習室利用者数、こちらは 29 年度実績 6,867 人、達成率は 83.7%でした。ボランティア団体の活動日数の合計に関しましては 298 日、こちらは 126.3%の達成率でした。

次のページをご覧ください。4番、収支状況です。まず、必須業務の収支状況です。収入ですが、指定管理料、利用料金収入、これらの合計、実績額が 4,863 万円でございました。計画に対して実績の乖離している部分、差異がある部分、これに関しましては、利用料金収入で 36 万円のマイナスとなっております、こちらは講座の収入減によるものとなっております。

次に、支出でございます。人件費、事務費、管理費、委託費、これらの合計額としまして、4,461 万 3,000 円となっております。こちらの計画に対しての実績の差異ですけれども、人件費で 242 万 4,000 円のマイナス。こちらは、賃金単価の見直し等によるものございます。また、委託費で 80 万 7,000 円の減。こちらは、委託先見直し等によるものございます。

次のページをご覧ください。次に、自主事業の収支状況です。収入ですが、自主事業収入としまして 74 万 1,000 円となっております。支出ですが、人件費、事務費、合計が 161 万 2,000 円となっております。

収支状況です。必須業務としまして、収支が 401 万 7,000 円の黒字となっております。自主事業の収支が 87 万 1,000 円の赤字となっております。合計の収支としまして、314 万 6,000 円の黒字となっております。

その下、5番目、管理運営状況の評価でございます。

管理運営による成果・実績ですが、講習室利用者数としまして、市の評価はC評価、標準どおりとなっております。こちらは 90.4%ということで、C評価となっております。

ボランティア団体の活動日数の合計ですが、A評価となっております。こちらの達成状況は 126.8%ということで、A評価としております。

次のページをご覧ください。

市の施設管理経費縮減への寄与に関しましては、市の評価としましてC評価、提案額と

同額ということでC評価としております。

管理運営の履行状況です。

まず、自己評価では、1番の市民の平等利用の確保・施設の適正管理と2番の施設管理能力、それから3番、施設の効用の発揮の1、(2)利用者サービスの充実、4番、その他にしましては、自己評価はB評価となっております。それに対しまして、市の評価も同様の評価となっております。

こちらの特記事項としまして、B評価をしたものについてご説明いたします。

まず、1番の市民の平等利用の確保・施設の適正管理にしましては、避難所運営委員会の設置のほか、備蓄品管理により、緊急時体制について強化したこと。

2番の施設管理能力にしましては、接遇、バリアフリー、認知症サポーター研修等を行い、サービス向上のほか、樹木管理研修等で植栽管理技術の向上を目指したこと。また、植栽管理において剪定作業、施肥管理等を充実させたほか、生け垣や柵の改修等を行い、安全で魅力ある快適な環境づくりに努めたこと。

また、3番の(2)で、利用者アンケートの結果をもとに、トイレの改善や樹名札の改善、展示内容の改善等を行い、利用者サービスに努めたこと。

4番、その他の市内業者の育成等にしましては、市内業者や千葉市シルバー人材センター等の利用、障害者雇用のほか、適切な雇用を行ったこと。リサイクル堆肥の活用により、園内植栽の魅力向上を図ったこと等を評価しまして、このような評価となっております。

6番の利用者ニーズ・管理等の把握です。

指定管理者が行ったアンケート調査の実施内容ですけれども、毎月の利用者アンケートと、あと講座アンケートを実施しまして、翌月の月次報告書で報告しております。

利用者アンケートは345人、講座アンケートについては428人の回答がございます。

結果です。

利用者アンケートですが、年齢的には70歳以上38.2%、60代28.3%と、高齢の方の利用者が多くなっております。交通手段ですけれども、自家用車が73.8%、こちらは公共交通機関がやや不便ということもありまして、このような割合となっております。来園頻度としましては、年数回が31.9%と最も多くなっております。満足度に関しましては、この段階評価で4.2ということに、総合評価、なっております。おおむね高い評価となっております。

ご意見等については、各イベントについてはおおむね好評で、利用者の満足度の高いサービスの提供が行われているものと評価できる。駐車場や交通の便、トイレ等の設備に関する意見・要望が多かったということです。あと、樹木・草花の管理ですけれども、おおむね良好な評価を得ているということになります。

総合的な満足度としまして、全体的に好意的な意見が多く、イベントの内容を評価する意見も多数いただいています。

次に、講座アンケートです。

こちらも70歳以上29.3%、60代37.6%と多くを高齢の方が占めております。

交通手段についても同様に、自家用車が多くなっております。

次のページをご覧ください。

7の総括です。

指定管理者による自己評価としまして、B評価となっております。

かなりボリュームが多いものですから、概略を説明させていただきます。

植栽管理において、昨年に引き続き、樹木剪定を積極的に行い、日照や景観の改善や

ハーブ園のリニューアルのほか、樹名板の設置をすることにより、植物園園地の魅力向上を目指した。

施設管理において、利用者アンケートによりトイレに関する意見が多かったため、トイレ個室面積の拡大や塗装を行い、快適性の向上を図った。

運營業務においては、受託講座や展示会の開催について滞りなく実施した。展示会開催時の天候不順により、来場者数が大幅に減少したが、満足度についてはおおむね良好となっております。

また、ボランティア等の連携により、継続して盆栽展示や写真展示を行ったほか、季節感を意識した展示を行った。

また、植物園だよりやリーフレットを関係各所に配布し、施設の認知度の向上等も図った。これまでのものに加え、ボランティア活動会員募集のパンフレットを作成し、各所へ配布したことにより、ボランティア活動の周知だけでなく、新規会員の獲得につなげ、課題となっている会員数の減少の改善を図った。

利用者アンケートにより、改善すべき点について検討を重ね、トイレの改修、展示会の充実、樹名板の設置などの改善を行った。特に、園内の魅力向上については、評価の声が多く聞かれるようになり、植栽管理作業の効果により園地の魅力向上につなげられたと考える。

これに対しまして、市による評価もB評価としております。

講習室利用者数の目標を達成できなかった。これについては、原因として、春と秋に計6日間開催するバラ展は、天候に恵まれなかったこともあり、来園者が1,547人だった。前年5,056人の約30%となり、年間の講習室利用者数にも影響した。

ボランティア団体の活動日数は、引き続き目標を大きく上回った。

自主事業では、ボランティア団体と協力して講習会を開催し、おおむね好評を得ており、市民サービスの向上に寄与しているといえる。ボランティア活動は来園者にも好評であり、ボランティア研修会・交流会を開催し、育成や交流にも力を入れているということでございます。

以上です。

○石井部会長 ありがとうございます。

それでは、只今の事務局のご報告に対しまして、委員の皆様からご質問、ご意見等ございましたら、ご発言をお願いいたします。

バラ展の天候は、秋は3日間のところでちょうど台風が来てしまったということでしょうか。

○公園管理課職員 秋のバラ展は、まさに台風がぶつかってしまいまして、29年度は秋のバラ展、3日間で来場者は133人と、物すごく少なくなっております。

○石井部会長 春は、3日間のうち1日雨は降っているようですが、この点はどのようなのでしょうか。

○公園管理課職員 こちらも、1日目が晴れ、曇り、2日目が雨、3日目が曇りだったんですけども、実は29年度はバラの開花時期がずれてしまいまして、実際にはバラ展をやっていたころには、もうほとんどバラが終わりかけでして、その前の週にバラ展じゃないときにご来場いただいた方もいらっしゃるようなんですけれども、そのあたりで足を運んでいただける方が少なかったということがございました。

○石井部会長 このバラ展のときの人数が減っているというのは、指定管理者がどうこうということではなくて、専ら天候というようにお聞きしてよろしいでしょうか。

○佐藤公園管理課長 はい。

○石井部会長 トイレについての意見が、引き続き出ているようではありますが、市として、トイレについて何か改修とか対応とか考えていることはございますでしょうか。検討していることは、ございますでしょうか。

○佐藤公園管理課長 トイレに関しては、浄化槽の施設になっておりまして、もともと下水道が通っていないエリアでして、近年になって、下水道も直近ではないんですが、つなげられないような状況ではございませんが、かなり距離があったりとかで、お金のかかる作業になりますので、こちらは検討してはございますが、なかなか実現には至らないという状況でございます。

それで、浄化槽の構造上、やっぱり臭気、においが上がってきってしまうということになっております。

○公園管理課職員 追加で、今、建築管理課と実際にトイレの修繕についての打ち合わせを進めているところです。

その中で、一番問題として上げられていますのが、トイレの中にある排水ます、そのトラップとって、水をためてにおいをとめるような構造の部分があるんですけども、その老朽化がにおいが上がってくる原因ではないかということで、今、部分的に部品を交換しまして、経過観察をしているところです。そちらで対応が可能でしたら、その部品交換なり、一部補修という形で対策がとればということで、今、話を進めているところです。

○石井部会長 観音寺委員、どうぞ。

○観音寺委員 利用者アンケートの年齢層を見ますと、アンケートに限らず、来園者の特徴だと思えますが、70歳以上と60代が6割ぐらいになっているということで、現状、60歳以上のやや高齢の方向けの施設というイメージかなと思えますが、今後、例えば子育て世代であったり、もう少し若年層を増やす意向とか、そういうお考えはあるのでしょうか。

○佐藤公園管理課長 こちらは、緑とか花の関連の講座ですとか展示会になるんですけども、やはり市民全体の高齢化にあわせて、この開園当初は、昭和56年に開園しているんですけども、そのころは、やはり比較的若い世代も含めて来ていた記憶があるんですが、大体その中で、やはりみんな全般的に高齢化する中で、緑と花に関しての利用者も上がってきている。

そういうことで、今のところ、これを若返らせるという部分で、なかなか特筆すべき対策は検討できないでいる状況です。

○観音寺委員 と言いますのも、10年後、この方たちがもう10年、年をとっていったら、新しい層が開拓できないとなると、どんどん利用者が減ってしまうと思うのです。

それで良しとするのか、そうではなく現段階で新規顧客を開拓していかないといけない気がします。指定管理者管理運営の基準の4ページ、運營業務の最初に広報、プロモーション業務というのがあって、この中で、インターネットのホームページ開設とか、施設案内リーフレットの作成、各種チラシ等々あるんですけども、多分、最近のプロモーションとか情報発信という中で、若者、子育て世代、40代ぐらいまでを考えると、SNSの発信とか、いろんなプロモーション手法があり、千葉市さんも市長がツイッターをやっておりますが、そういうものがあると思うのですが、多分こちらはやってない気がしています。

今後、新たな層を開拓するために、何か動き出すということも検討していかなければいけないという気がしますので、お伝えします。

あと、つけ加えますと、実際、公園の存在を知らない人が多くいると思っていて、以前から私、言っているのですけれども、行けばすごく良い公園だと思うんですね。

例えば、子供を連れて、お弁当を持って、敷物を敷いてという場所は、千葉市さんはいっぱい公園があるのですけれども、ここの場所もそういうのにすごく合っている公園だなどと思いますし、多分そんなに混雑もしないので、いい意味でゆったり過ごせるという気もします。市政だよりも読まないママさんとか、そういう方もいらっしゃると思いますので、何かしらプロモーションしていかないと、利用者は増えないのかなというふうに思います。

講習室利用者数というのを今回、目標というか、90%の達成率になっていますけれども、新たな客層を開拓するということのほうが重要なんじゃないかなという気がします。

以上です。

○蒔田委員 一つよろしいですか。

資料8-1の3ページの、管理運営状況の評価の中に、講習室利用とボランティア団体活動の利用日数の合計で、その利用率が126%と書いてありますが、ふらっと公園に来たとか、花を見に来たとかという利用者数はここには出てこないんですね。バラだからバラの花を見に行こうとか、秋だから菊の花を見に行こうよという利用者は。

○佐藤公園管理課長 これは比較的狭い公園なんですけれども、出入り口が3カ所ありまして、その利用者数の把握というのがなかなか難しいという部分がございます。

○蒔田委員 なるほどね。どこから入って、どこから出たかというのは一々カウントしてられない。でも、ないことはないですね。何人かはいらっしゃるはずですね。

○佐藤公園管理課長 毎日散歩で、通りすがりで多分見るといふような。

○蒔田委員 それが大事だと思うんですよ。緑地公園というのは、散歩で利用できて、先ほど観音寺委員もおっしゃいましたけれども、ちょっと行けるといふ、そんな雰囲気をもう少しコマースで宣伝していただければいいのかなと思います。

○佐藤公園管理課長 ただ、ちょっと市街地の外れにございまして、京葉道路と、あと東金有料道路のインターに接していて、ちょっと住宅地から隔離された状況です。

その散歩の利用者というのも、裏手に若干、旧の集落の方とか、若干の住宅がございますので、そこら辺のリピーターが多くなってございます。

○蒔田委員 わかりました。

○石井部会長 どうぞ。

○柳井委員 まず、私もこの数字を見て、若い人が少ないなというのが率直な感想を受けました。

SNSということもあるんだと思うんですけれども、町内とか子育てサークルとか、結構、多分いろんなところにそういう人たちがいると思うので、そういうところにどういふふうに関わりかけるか。個別にSNSというのもあると思いますし、そういう組織の中にどうプロモーションしていくかというのもあると思います。

それから、全体にコアな層の園芸技術的な、もちろんそれが大きな目的になるから、そこが中心になって、だから自分ちの庭で何かやっているような人が結構来るのかなという印象があるんですけれども。

楽しみ方というか、こういうふうに関わり管理するよじゃなくて、こういうふうに関わり楽しむよとか、この公園はここに何がありますよじゃなくて、こういうふうに関わり楽しむよみたいなことがうまく発信、楽しみ方の提案みたいなものがうまく発信できるといいんじゃないかなと思います。

子ども講座とありますけれども、これは何か受けているというか、大体年に、休みのときに3回ぐらい、小中学生を相手にやるというイメージですか。

○佐藤公園管理課長 そうですね。

○柳井委員 これ以外には特に何か、お母さん向けのとか、特にはやっていないんですか。

- 佐藤公園管理課長 若いお母さん向け、どっちかというとハーブ講座とか、そこら辺は若い方々にも受けている講座でして、子供の講座も、昔は、講座全体が連続講座がほとんどだったんですけども、年間 10 回とか。子供のほうも、そういうことで、連続講座を昔はやっておりまして。
- ただ、その後、受講者数が非常に、だんだん少なくなって、ついには 2 人とか、そういう状況になった中で、ちょっと打ち切りにしたということ聞いております。
- 柳井委員 これは何か、子供を預けるサービスとかそういうのはあるんですか。お母さんが講習を受けている間、子供を預かってくれる、そういうのはないですか。
- 佐藤公園管理課長 それはないです。
- 柳井委員 わかりました。
- あと、ボランティア団体の活動の場になっているということなんですけれども、いろんな講座でいろんなことを学んだ人の出口というのは。
- 佐藤公園管理課長 その後、ボランティア団体になります。
- 柳井委員 そのボランティア団体に、要するに学んだ人がそこに入る。これは、実際成果としては上がっているんですか。
- 佐藤公園管理課長 はい。
- 柳井委員 上がっている。わかりました。
- 石井部会長 アンケート調査なんですけれども、利用者アンケートと講座アンケートはあるんですが、ボランティア団体に対するアンケートというのは、行ってはいないのでしょうか。
- 佐藤公園管理課長 ここでは行っていません。ボランティアに関しましては、年に 1 回、ボランティア会議のようなものを開きまして、その中でボランティアさん全体に集まっていたいただいて、いろいろ意見交換を行ったりしていますので、その中でいろいろ意見聴取しております。
- 石井部会長 その聴取した意見を踏まえて、管理運営に役立てているということなんでしょうか。
- 佐藤公園管理課長 はい。
- 石井部会長 そうしますと、その成果指標としてボランティア団体の活動日数というものも上がってきていますので、ボランティア団体からどういう意見が上がっていて、それに対してこの指定管理者がどう対応したかということも、この場でもわかるとより良いかなと思いました。
- 佐藤公園管理課長 ボランティアに関しましては、意外と施設管理者に対して要望というよりも、何かあったら自分たちで改善していく、そういう姿勢がございまして、比較的、そこでお互いできることを、意見を出し合って、自ら改善していくという姿勢が多くございます。
- 石井部会長 そのほか、何か委員の皆様、ご質問などございますでしょうか。どうぞ。
- 観音寺委員 資料 8-6 の 5 ページの一番上の利用者数ですが、受託事業の展示と自主事業の展示というのがあって、例えば 5 月は受託事業 1,462、自主事業は 582 と、これだけで 2,000 人ぐらいいたり、そのほか 10 月、11 月、それから 2 月に展示のところでは人がいますが、そのほかはゼロになっている。
- これは、常設の展示に来た人とは別に、展示業務を何か別途やった、例えばバラ展とか、そういう人だけカウントしているということでしょうか。
- 佐藤公園管理課長 そうです。



○公園管理課職員 その季節に菊花展がございますので、そのときの人数なんかカウントされています。

○観音寺委員 展示の一覧を見ると、実施日数 308 回とかと、ほぼ毎日やっているようなものはここにカウントされていないということなのではないでしょうか。

そういうのを見に来た人は、先ほど蒔田委員が言ったように、普通にふらっと来て、行っちゃう人ということになって、カウントしていないということですか。

○公園管理課職員 はい、主にみどりの相談所の中でやっているような、そういうような特別なイベントのときにはカウントはされておりますので、数が反映していく。

ただ、園内にいらっしゃった方に関しては、カウントはされていないということがございます。

○観音寺委員 この 90.4%というのが、どこまで意味があるのかなという気がしてしまいます。

目標 8,200 人に対して、6,867 人、達成率 83.7%ということで、通常のか考え方で行くとこれをどうやって埋めるのかということになると思うのですけれども。

この資料 8-6 の 5 ページを見たときに、ほかのゼロになっているところを増やすべきじゃないかなと単純に考えるのですが、こういう時期も当然やっていて、要はカウントしていないだけで、人は来ているということですよ。

このカウントの考え方というのは、していないものはしょうがないのじゃないけれども、何か違和感を感じてしまいます。

○佐藤公園管理課長 実は、そんなに多くの方が来るような位置というか、場所的なものも含めて、日常的にそんなに多くが来ない中で、展示会をやると、やっぱり盆栽展ですとか、あとハーブ展ですとか、バラ展、それを目指して結構多くの方が来るという構図になっていますので、ある程度、施設内容も含めて、今のままですと、やはりこういう形になってくるのかな。ふらっと通りかかる方、そんなに実はまだ多くないという部分で。

○観音寺委員 そう言われるとなおさら、展示を増やせばいいのではないかなと思ってしまうのですが、そうではないのでしょうか。

○佐藤公園管理課長 それは、いろいろ……

○観音寺委員 ご負担があったりとかでしょうか。

○佐藤公園管理課長 植物に関する講座も含めて、いろんなメニューがある中で、今、集中して、いろいろ出せるものは出しているというところでは。

○観音寺委員 了解しました。

○柳井委員 結構小まめに植栽というか、生け垣をやったり、それからトイレも修繕という形で対応されていると思うのですけれども、それによって満足度、アンケートをとっていらっしゃると思うのですけれども、満足度が上がったとか、そういう顕著な傾向というのは、何か見られるんですか。あるいは、好意的な意見の中に、とてもトイレが良くなったよとか。

多分、28 年も同じようなアンケートをやられているのかなと思うのですけれども、そのあたり、いかがでしょうか。

○公園管理課職員 資料 8-1 の 6 のアンケートの結果のところには、年度の満足度に関して、利用者アンケートの満足度に関して、年度相応のところでは施設・設備 4.1、管理運営 4.1 ということで、年度の評価の平均値を入れてございますけれども、やはり前半から後半にかけて、特に経営管理ですとかそういうようなものに関しては、徐々に満足度の評価が上がってきているというような数値が出ております。

やはり、毎月アンケートを集計していく中で、指定管理者が問題となる場所というの

を重点的に対応していくことで、満足度ということでアンケート評価に反映されているということが出ておりますので、努力の結果は、その数字、0.何ポイントですけれども……。

○柳井委員 ちょっとずつ、0.何も結構上がるのは大変です。5が大分増えないと、4に乗らないというのはありますから。わかりました。

○石井部会長 そのほか、いかがでしょうか。

それでは、1、公の施設の基本情報から7、総括（1）の評価については、以上で終わります。

続きまして、7、総括（3）都市局指定管理者選定評価委員会の意見についてですが、次年度以降の管理運営をより適正に行うための意見、ご助言など、委員の皆様、よろしくお願いいたします。

○蒔田委員 今後も、資料8-2と3のモニタリングレポートの中に、プラス評価ということがたくさん書かれている。このとおり、順調に管理運営をさせていただきたいと思えます。

これ、全体的に見ると、非常によくやられているところですよ。

○観音寺委員 蒔田委員と同様、このペーパーに書かれているとおりにやっていただきたいですし、資料8-2の8ページですけれども、利用促進の方策の中に、積極的なプロモーション活動を行い、市民等の利用促進、利用拡大を図ることという中で、青葉の森公園や県内の各県立公園等にチラシやポスターを設置するなど、広域的な広報を行い、千葉市都市緑化植物園の認知度を向上させ、利用促進につなげるということがございますので、メジャーなところに張って知ってもらうというのは非常にいい話だと思いますし、可能であれば新しいプロモーションというところも検討されると良いと思います。

SNSと言いましたが、それは一つの例だと思いますので、適切な形で、いかに知ってもらうかが重要です。知らないことには当然誰も来ませんから。

既存のお客様がリピート化することも重要なんですけども、新しいお客様を開拓するということにも少し力を注いでほしいなということです。

○石井部会長 ありがとうございます。どうぞ。

○柳井委員 引き続き、ここはやっぱりボランティア団体が相当運営を担っているというか、活躍されているというのが、一番の特徴だと思いますので、引き続きそこを活動の場として確保できるように。

あるいは、さっきアンケートという話がありましたけれども、ボランティア団体の方々のやりやすさというか、意見とか、そういったもの、意見交換できる場というのを引き続き確保していただきたいなということと、さっきも言いましたけれども、講座で学んで終わりじゃなくて、講座で学んで活躍の場があるというような考え方で進めていただきたいと思えます。

それから、やっぱりこの植物園の基盤となる植栽の管理であったり、施設の修繕であったり、先ほどお伺いすると満足度の向上に反映しつつあるということですので、こちらのほうも、今まで結構小まめにやられていると思いますけれども、引き続き頑張っていたいただければと思います。

○石井部会長 ありがとうございます。印南委員、いかがでしょうか。

○印南委員 私のほうからは何もございません。

○石井部会長 私のほうから若干。

この指定管理者につきましても、ボランティアとの連携も、新しい指定管理者になってどうかという不安もないわけではなかったわけですが、きちんと連携をとれていて、より活発な活動ができていますので、引き続きお願いしたいと思います。

それから、利用者からのアンケートで上がってきている意見に対しても、できるところについてはきちんと対応されているようですので、あと指定管理者でできない部分については市で、先ほどお話もありましたが、対応をよろしくお願ひしたいと思ひます。

今年度は、成果指標のうち、講習室の利用者数については、天候等の関係で達成できていませんでしたが、引き続き来年、目標達成できるようにしっかりとさせていただきたいなと思ひます。

これまでに出了皆様からの意見もあわせまして、部会の意見とさせていただきますと思ひます。

以上が、7、総括（3）都市局指定管理者選定評価委員会の意見でございます。

最後に、資料8-7、8-8の指定管理者財務諸表から見る当該指定管理者の財務状況について、印南委員からよろしくお願ひいたします。

○印南委員 この会社の財務諸表というのはすごく良いんですね。

財務諸表から見られるのは、すごく安定した会社。誠実に運営しているというのがわかるような会社です。問題はないです。

○石井部会長 ありがとうございます。

では、以上で、議題（2）都市緑化植物園みどりの相談所の年度評価を終わります。

本日の議事は全て終了いたしましたので、これをもちまして平成30年度第1回千葉市都市局指定管理者選定評価委員会公園部会を閉会いたします。

事務局にお返しいたします。

○福原都市総務課長補佐 本日は長時間にわたる慎重な審議、どうもありがとうございました。

本日いただきましたご意見を踏まえまして、亥鼻公園集会所、それから都市緑化植物園みどりの相談所がますます利用者にとって使いやすい施設となるように管理運営して参りたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

本日はどうもありがとうございました。